BVJ-002SE

耐震診断結果の概要書

申請者	会社名等				
	代表者名				
診断者	事務所名			TEL	
	担当者		級建築士　第　　号	FAX	
建物概要	(1)建物名称				
	(2)所在地		(3)用途		
	(4)構造・規模	造　　地上　　階 ・ 地下　　階 ・ PH　　階		高さ　　m	
		架構形式	X方向:　　Y方向:		
	(5)建設年				
	(6)面積	建築面積　　㎡ ・ 延べ面積　　㎡ ・ 診断対象　　㎡			
	(7)階高	1階　　m ・ 基準階　　m			
	(8)桁行×梁間　全長 (桁行ｽﾊﾟﾝ×梁間ｽﾊﾟﾝ)	m × m (m × m)	(9)構造的特徴:下階壁抜け柱の有無、Pca屋根の有無、形状など (例)　平面的に整形な建物、立面的にはセットバックがある 下階壁抜け柱が存在する。		
	(10)地盤	表層(　　) ・ 支持層(　　) GL　　m			
		長期杭支持力　　KN/本 ・ 長期地耐力　　KN/㎡			
	(11)基礎	杭基礎　　直接基礎			
現地調査結果及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度　Fc＝　～　N/mm^2			
		標準偏差　σ＝　～　N/mm^2			
		各階の圧縮強度(X_{mean}-1/2σ)　σB＝　～　N/mm^2			
		診断採用強度　Fc＝　～　N/mm^2			
	(2)鉄筋	主筋　(種別、径)　　診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2			
		帯筋　(種別、径)　　@　　診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2			
	(3)鉄骨	種別　　診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2			
	(4)中性化深さ	平均　(　　mm) ・ 最大　(　　mm)			
耐震判定指標	(1)Iso		(2)C_{TU}・S_D		

Is指標値
C_{TU}・S_D値

経年指標　T=

階	X方向						Y方向					
	E_O	S_D	F	Is	C_{TU}・S_D	判定	E_O	S_D	F	Is	C_{TU}・S_D	判定

(注)　診断値は正加力時、負加力時の小なる値　　・S造ではC_{TU}・S_D欄はq欄とする。

電算ソフト		診断次数　(　　)	

考察

(1)建物の構造的特徴
(例)　第2種構造要素となる極脆性柱が存在する。
第2種構造要素と判定される下階壁抜け柱が存在する。
(2)診断で判明した耐震性能上の問題点
(例)　X方向1,2階で耐震判定指標を下回る。
柱帯筋量が少なく、柱の靭性が乏しいため耐震性能が低い

備考

20150801

BVJ-002SE

耐震診断結果の概要書

申請者	会社名等				
	代表者名				
診断者	事務所名			TEL	
	担当者		級建築士 第　　号	FAX	
建物概要	(1)建物名称				
	(2)所在地		(3)用途		
	(4)構造・規模	地上　階 ・ 地下　階 ・ PH　階		高さ	
		架構形式	X方向:	Y方向:	
	(5)建設年				
	(6)面積	建築面積　㎡ ・ 延べ面積　㎡ ・ 診断対象　㎡			
	(7)階高	1階　m ・ 基準階　m			
	(8)桁行×梁間　全長 (桁行ｽﾊﾟﾝ×梁間ｽﾊﾟﾝ)	m × m (m × m)	(9)構造的特徴:		
	(10)地盤	表層(　) ・ 支持層(　) GL			
		長期杭支持力　kN/本 ・ 長期地耐力　KN/㎡			
	(11)基礎				
現地調査結果及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度	Fc＝	～	N/mm^2
		標準偏差	σ＝	～	N/mm^2
		各階の圧縮強度(X_{mean}-1/2σ)	σB＝	～	N/mm^2
		診断採用強度	Fc＝	～	N/mm^2
	(2)鉄筋	主筋 (種別、径)	診断時降伏点強度	σy＝	N/mm^2
		帯筋 (種別、径)	診断時降伏点強度	σy＝	N/mm^2
	(3)鉄骨	種別	診断時降伏点強度	σy＝	N/mm^2
	(4)中性化深さ	平均 (　mm) ・ 最大 (　mm)			
構造耐震指標	(1)GIs				

GIs指標値 Qu/α・Qun値

劣化係数 U＝　，じん性能補正係数 αd＝　，モデル化係数 αm＝　重要度係数 I＝

階	X方向						Y方向					
	Qu/P	α	Ds	GIs	Qu/α・Qun	判定	Qu/P	α	Ds	GIs	Qu/α・Qun	判定

(注) 診断値は正加力時、負加力時の小なる値

電算ソフト		診断次数 (官庁施設の総合耐震診断・改修基準)
考察	(1)建物の構造的特徴 (2)診断で判明した耐震性能上の問題点	
備考		

20150801

BVJ-002SE

耐震診断結果の概要書

申請者	会社名等				
	代表者名				
診断者	事務所名			TEL	
	担当者		級建築士 第　　号	FAX	
建物概要	(1)建物名称				
	(2)所在地		(3)用途		
	(4)構造・規模	造　地上　階・地下　階・PH　階		高さ　m	
		架構形式	X方向:	Y方向:	
	(5)建設年				
	(6)面積	建築面積　㎡・延べ面積　㎡・診断対象　㎡			
	(7)階高	1階　m・基準階　m			
	(8)桁行×梁間 柱ピッチ	m × m	(9)構造的特徴: (例) 屋根は鋼板瓦棒葺きで片流れとなっている。		
	(10)地盤	表層(　)・支持層(　)　GL　m			
		長期杭支持力　KN/本・長期地耐力　KN/㎡			
	(11)基礎	杭基礎	直接基礎		
現地調査結果及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度　Fc＝　～　N/mm^2			
		標準偏差　σ＝　～　N/mm^2			
		各階の圧縮強度(X_{mean}-1/2σ)　σB＝　～　N/mm^2			
		診断採用強度　Fc＝　～　N/mm^2			
	(2)鉄筋	主筋 (種別、径)	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
		帯筋 (種別、径)　@	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
	(3)基礎の健全度				
	(4)使用木材				
	(5)接合部				
	(6)腐朽・蟻害				
上部構造評点	判定値		構造評点 = 保有する耐力(edQu) / 必要耐力 (Qr)　≧1.0		

診断結果	方向	階	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減 eKfl	劣化低減 dK	保有耐力 edQu (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点	判定
	X	3							
		2							
		1							
	Y	3							
		2							
		1							

電算ソフト		診断法 (　)	
構造的特徴			
備考			

20150707

		分類	対　策	選択	注意事項
総合評価	地盤	よい・普通			
		悪い			
		非常に悪い（埋立地、盛土、軟弱地盤）	表層の地盤改良を行っている		
			杭基礎である		
			特別な対策を行っていない		
			その他		
	地形	平坦・普通			
		がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
			石積み		
			特別な対策を行っていない		
			その他		
	基礎	鉄筋コンクリート	健全		
			ひび割れが生じている		
		無筋コンクリート	健全		
			軽微なひび割れが生じている		
			ひび割れが生じている		
			足固めあり		
			足固めなし		
		その他（ブロック基礎等）			

上部構造評点のうち最小の値	評点	判　定	選択
	1.5以上	倒壊しない	
	1.0以上～1.5未満	一応倒壊しない	
	0.7以上～1.0未満	倒壊する可能性がある	
	0.7未満	倒壊の可能性が高い	

その他の注意事項	
考察	

BVJ-003SE

耐震改修計画の概要書

申請者	会社名等				
	代表者名				
診断者 （補強設計者）	事務所名			TEL	
	担当者		級建築士　第　　号	FAX	
建物概要	(1)建物名称				
	(2)所在地			(3)用途	
	(4)構造・規模	造　地上　階・地下　階・PH　階			高さ　m
		架構形式	X方向:　　Y方向:		
	(5)建設年				
	(6)面積	建築面積　㎡・延べ面積　㎡・診断対象　㎡			
	(7)階高	1階　m・基準階　m			
	(8)桁行×梁間　全長 （桁行ｽﾊﾟﾝ×梁間ｽﾊﾟﾝ）	m × m （　m × m）	(9)構造的特徴:下階壁抜け柱の有無、Pca屋根の有無、形状など (例)　平面的に整形な建物、立面的にはセットバックがある 下階壁抜け柱が存在する		
	(10)地盤	表層（　　・支持層（　　）　GL　m			
		長期杭支持力　KN/本・長期地耐力　KN/㎡			
	(11)基礎	杭基礎　　直接基礎			
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度	Fc＝　～　N/mm^2		
		標準偏差	σ＝　～　N/mm^2		
		各階の圧縮強度（$X_{mean}-1/2\sigma$）	σB＝　～　N/mm^2		
		診断採用強度	Fc＝　～　N/mm^2		
	(2)鉄筋	主筋（種別、径）	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
		帯筋（種別、径）　@	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
	(3)鉄骨	種別	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
	(4)中性化深さ	平均（　mm）・最大（　mm）			
診断で判明した 耐震性能上の問題点					
耐震判定指標	(1)Iso		(2)C_{TU}・S_D		
補強計画	(1)補強方針		(3)補強壁・鉄骨ブレース等の枚数		
	(2)補強工法 X方向　: Y方向　:		階	X方向	Y方向
電算ソフト			診断次数（　　）		

Is指標値 C_{TU}・S_D値

経年指標　T=

階	X方向								Y方向							
	補強前				補強後				補強前				補強後			
	次				次				次				次			
	Is	F	S_D	C_{TU}・S_D	Is	F	S_D	CTU・SD	Is	F	S_D	C_{TU}・S_D	Is	F	S_D	CTU・SD

（注）　診断値は正加力時、負加力時の小なる値　　・S造ではC_{TU}・S_D欄はq欄とする。

備考	

20180525

BVJ-003SE

耐震改修計画の概要書

申請者	会社名等				
	代表者名				
診断者 （補強設計者）	事務所名			TEL	
	担当者		級建築士　第　　号	FAX	
建物概要	(1)建物名称				
	(2)所在地			(3)用途	
	(4)構造・規模	造　　地上　　階・地下　　階・PH　　階			高さ　　m
		架構形式	X方向:　　Y方向:		
	(5)建設年				
	(6)面積	建築面積　　㎡・延べ面積　　㎡・診断対象　　㎡			
	(7)階高	1階　　m・基準階　　m			
	(8)桁行×梁間　全長 （桁行ｽﾊﾟﾝ×梁間ｽﾊﾟﾝ）	m ×　　m （　m ×　　m）	(9)構造的特徴:下階壁抜け柱の有無、Pca屋根の有無、形状など (例)　平面的に整形な建物、立面的にはセットバックがある 下階壁抜け柱が存在する		
	(10)地盤	表層（　　）・支持層（　　）　GL　　m			
		長期杭支持力　　KN/本・長期地耐力　　KN/㎡			
	(11)基礎	杭基礎　　直接基礎			
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度	Fc＝　～　N/mm^2		
		標準偏差	σ＝　～　N/mm^2		
		各階の圧縮強度（X_{mean}-1/2σ）	σB＝　～　N/mm^2		
		診断採用強度	Fc＝　～　N/mm^2		
	(2)鉄筋	主筋（種別、径）	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
		帯筋（種別、径）　@	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
	(3)鉄骨	種別	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
	(4)中性化深さ	平均（　　mm）・最大（　　mm）			
診断で判明した 耐震性能上の問題点					
補強目標	(1)$_G$Is				
補強計画	(1)補強工法		(2)補強壁・鉄骨ブレース等の枚数		
			階	X方向	Y方向
電算ソフト			診断次数（　官庁施設の総合耐震診断・改修基準　）		

Is指標値 C_{TU}・S_D値	劣化係数 U＝　　，じん性能補正係数 αd＝下表　　，モデル化係数 αm＝　　重要度係数 I＝																
		X方向								Y方向							
		階	Qu/P	αd	α	Ds	GIs	Qu/α・Qun	判定	階	Qu/P	αd	α	Ds	GIs	Qu/α・Qun	判定
	補強前																
	補強後																
	(注)　診断値は正加力時、負加力時の小なる値																
考察																	

20150801

BVJ-003SE

耐震改修計画の概要書

申請者	会社名等				
	代表者名				
診断者	事務所名			TEL	
	担当者		級建築士 第　　号	FAX	
建物概要	(1)建物名称				
	(2)所在地		(3)用途		
	(4)構造・規模	造　地上　階・地下　階・PH　階		高さ　m	
		架構形式	X方向:	Y方向:	
	(5)建設年				
	(6)面積	建築面積　㎡・延べ面積　㎡・診断対象　㎡			
	(7)階高	1階　m・基準階　m			
	(8)桁行×梁間 柱ピッチ	m × m	(9)構造的特徴: (例) 屋根は鋼板瓦棒葺きで片流れとなっている。		
	(10)地盤	表層(　)・支持層(　)　GL　m			
		長期杭支持力　KN/本・長期地耐力　KN/㎡			
	(11)基礎	杭基礎	直接基礎		
現地調査結果及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度　Fc＝　～　N/mm^2			
		標準偏差　σ＝　～　N/mm^2			
		各階の圧縮強度(X_{mean}-1/2σ)　σB＝　～　N/mm^2			
		診断採用強度　Fc＝　～　N/mm^2			
	(2)鉄筋	主筋 (種別、径)	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
		帯筋 (種別、径)　@	診断時降伏点強度　σy＝　N/mm^2		
	(3)基礎の健全度				
	(4)使用木材				
	(5)接合部				
	(6)腐朽・蟻害				
上部構造評点	判定値		構造評点 = 保有する耐力(edQu) / 必要耐力 (Qr)　≧1.0		

補強計画	(1)補強工法	(2)補強壁・筋交い等の枚数			
		階	補強項目	X方向	Y方向	備考
		3	構造用合板			
			たすき掛け筋交い			
		2	構造用合板			
			たすき掛け筋交い			
		1	構造用合板			
			たすき掛け筋交い			

補強結果	方向	階	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減 eKfl	劣化低減 dK	保有耐力 edQu (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点	判定
	X	3							
		2							
		1							
	Y	3							
		2							
		1							

電算ソフト		診断法 (　)
考察		

20150801